



聖心女子大学
「聖心歳時記」

@SeishinDiary



聖心女子大学「聖心歳時記」

作成者: goukaku@u-sacred-heart.ac.jp [?]

「いいね!」済み・8月11日・🌐

シリーズ学生記者が行く

— 広尾Walking2017 —

人々の拠り所 辨天閣

私達がいつも通学に使っている表通りではありませんが、広尾商店街のまさに中心に当たる場所に廣尾辨天閣があります。小さいが威厳たっぷり、趣深く立つ真っ白な鳥居。ここでは表通りのにぎやかな雰囲気とは異なり、静かで、緩やかな時が流れています。

広尾商店街マップ情報誌HIROO walk 第9号 (http://www.hiroo.info/wp-content/uploads/2016/05/hiroo_walk_vol9.pdf)にて取材された野村省代さんは語ります。

辨天閣は、明治後期頃、広尾で宮大工をしていた石塚佐治太郎さんが、弁財天を祀っている江の島神社に詣でたことがきっかけとなり、建立されました。その建立のきっかけとなったのは、偶然か運命か、今では信じ難いこんなお話からでした。

当時、現在の辨天閣のある場所には池があり、そこである日、石塚さんは白蛇を見つけたのです。白蛇は水の神、弁財天の遣いと言われており、この言い伝えを想起し、宮大工であった石塚さんは、辨天閣を建立するに至ったということです。

一般的に、弁天様は農業、商売、芸能の神様とも言われていますが、広尾の弁天様はそれだけではありません。弁天様は、土地の守り神としての役割も果たしており、第二次世界大戦中、この地区が戦火を逃れたのも弁天様のお陰と言われています。現在でも多くの方が、商売繁盛、健康など様々な願いを抱いて参拝に訪れています。毎日欠かさずに訪れていた商売人のお店が大繁盛したとも言われており、弁天様のお力は計り知れません。

また、日々の祈願だけでなく2月の節分にはたくさんの子供達で賑わい、また8月には辨天閣をお守りする地域の方々が集う大祭が行われます。

明治から大正、昭和、平成と変わらず受け継がれていく辨天閣。それは時を越え、いつまでも広尾に住む人々の心の拠り所となっています。

日常の慌ただしさから少し離れ、頭の中を整理したり、気持ちを落ち着かせたり、虫の音や木々の揺れる音を感じられるひと時が心地良いこの辨天閣を訪れてみてはいかがでしょうか。

SRS(聖心 Radio Station)部員 明星 瑞貴(1年)

広尾散歩通り MAP 「廣尾辨天閣」は、B-2です。 <http://www.hiroo.info/>